平成 27 年度稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議　「主な意見の分類」

資料４

海外姉妹都市の交流目的

国際化

・グローバル化の中では、進めていくべきである。
・姉妹都市提携で海外との距離を縮めていけたらいい。
・グローバルの世界で生きて行ける人間を育てるというのが、姉妹都市を結ぶ一つのメリット。
・グローバルな視点を持った子どもの育成が重要。

経済

・攻めの商売をやるためのノウハウを学び、チャレンジする人を作るためのツールとして姉妹都市を選ぶのが一番いい。

青少年健全育成

・グローバルの世界で生きて行ける人間を育てるというのが、姉妹都市を結ぶ一つのメリット。
・グローバルな視点を持った子どもの育成が重要。
・子どもたちに素晴らしい夢の持てる場所を作ってあげたい。
・国際社会に出ていかなければいけないグローバル社会の中、青少年がもっと海外に飛び出せる機会を作れれば良いと思う。
・青少年を中心とした文化交流を目的とすれば、良いものができるのではないか。
・自分自身が英語をもっと勉強していればよかったという思いをしてきたので、子どもたちには姉妹都市で、英語を勉強できる環境を作ってあげたい。

その他

・可能な限り、特定の人のためではなく、市民のために、そして、この街の活性化のために、何かいい仕組み作りができれば。
・姉妹都市になれば、小さい子からお年寄りまでみんなが交流できる。

青少年育成につながる

青少年が交流することを考慮

目的を達成できる場所を選定する。

交流事業を実際に実施できる場所を検討する必要がある。

交流事業

教育交流

・スカイプなど、インターネットを使った画像・動画の交流をすれば、多くの子どもたちに、相手国を見てもらい交流をすることができる。
・他市の例を見ても、教育交流が非常に多いと感じた。
・小・中学生で教育交流を行うと考えた場合、選ばれた子どもたちだけが行くというような形より、多くの子どもたちが参加できるような事業の方が良い。
・学校同士で交流をスタートすることが良い。
・子どもを海外に送り出したり、受け入れることは賛成。
・１年間海外留学させると、全く違う人間になって、たくましくなって帰ってくる。たくましい人間を育てるには海外留学が非常に効果的であり、そうしたことに姉妹都市を利用できれば良い。
・野沢温泉村が行っている「稲城１００年の森」のような交流ができると良い。

スポーツ交流

・スポーツを通じて海外とも市民交流ができると良い。
・稲城市もサッカーや野球が盛んであり、子どもたちのスポーツ交流ができるといい。

ホームステイ

・斡旋業者が実施するホームステイと姉妹都市を結んだ都市とのホームステイでは、内容の濃さが全然違う。
・ホテルをとり、こちらにきたら、日本の文化を通して交流をすることもできるし、東京案内をして交流をすることもできる。
・ホームステイという前置きがあるから難しいのであって、「交流」と言う形で来てもらい、どこかホテル等に泊まり、次の日に待ち合わせをして、交流することもできる。
・最初からホームステイということではなくても良い。

文化交流

・茶道、華道、書道、陶芸で交流ができれば、より有意義な姉妹都市を結べる。
・他市の交流例でも、文化交流というのは必ず入っている。

広範囲な交流

・青少年から高齢の方まで、幅広く芸術文化やスポーツ等へと交流内容を広げる良い。
・教育交流だけではなく、若い世代から大人まで、幅広い年齢層が交流できるようになれば良い。
・教育、文化、経済、スポーツ、行政、それを複合的にやっていかなければ交流は長続きしない。

候補地

条件

・規模、距離等も調べると良い。
・治安については、ある程度以上の治安が必要だと考える。
・子どもたちの交換留学先を考えると、治安が整っていて、安心できる場所が良い。
・場所については、比較的稲城から近いところが良い。
・衛生状態が悪い、環境が厳しい、文明が遅れている等、そういうことを心配していたら、何もできない。

過去の交流実績・きっかけが有るところ等

・他市の例を見ても、知っている方が在住していたり、相手方を知っているなど、何らかの関係があるところが姉妹都市になっていることが多いと思う。
・仲介してくれる方がいないと、現実的な話にならない。
・実施している民間や学校の交流の中から、相手先を選ぶことが多いと思う。
・相手先は、交流が一方通行の国を選ぶのではなく、今まで稲城と交流のあったオレゴン州やモンゴル等を候補地として考えてはどうか。
☞実績については別紙「資料５」を参照

※海外姉妹都市としての目的達成のため、市民にとって、もっとも効果的な候補地を検討し、選定していく必要がある。

英語圏

・英語圏であることは大事な一つ。
・英語圏は、子どもたちの教育の面で良い。
・小・中学校の外国語教育では、英語を主体に学習をしているので英語圏が良い。
・英語は世界共通言語になりつつあるので、英語圏とするのがいい。
・海外姉妹都市は英語を学べる良い機会。
・英語が世界のスタンダードになっているので英語圏が非常に良い。
・自分自身が英語をもっと勉強していればよかったという思いをしてきたので、子どもたちには姉妹都市で、英語を勉強できる環境を作ってあげたい。
・英語圏と姉妹都市の関係ができればいいと思う。
・大人の世代も語学留学を積極的にやっているので、その行き先が姉妹都市であるならば、非常に有意義である。
・観光立国に向けた国の通知に基づき、職場でも英語教育について話をした。

英語圏以外

・英語圏ではない場所も、話には結構出てきており、稲城市としても英語圏ではない所とも交流があった。もう少し時間をかけて考えた方が良いと思う。

アジア

・英語圏と言ってもアメリカだけではない。フィリピンやネパール等も勉強熱心で英語もできる。
・今後日本との関係が出てくると思われるインドやベトナムについても、経済交流が民間交流へと繋がっていくことはよくあることなので、そういう視点から候補地を選定していくのも良い。
・中国は政治的にもいろいろあると思うが、姉妹都市交流の中国の目的は、異文化交流とは違い、商売に結び付けたいという事に重点が置かれていると感じた。

交流事業の実施体制

組織

・将来的には組織体制をどうするのかが課題である。

交流財源

・交流事業に対して、金銭的な補助を考えることが必要。
・財源も含めた仕組み作りをしていかないと、交流は難しい。